

被ばく医療プロフェッショナル育成計画

実施機関：弘前大学（総括責任者：佐藤 敬）

実施期間：平成 22～26 年度

プロジェクトの概要

本事業では、国の原子力政策における危機管理対策の一環として、被ばく医療に関わる高度な専門的知識、能力や技術を有する人材を育成し、医療、教育・研究及び行政機関等において、被ばく医療に対応できる体制を構築することにある。そのために、弘前大学に設置する「被ばく医療総合研究所」を母体とした人材育成及び研究拠点を基軸にその任にあたる。また、当該施設の被ばく医療に関わる国際拠点化計画に基づき、国際的連携の涵養も取り入れた人材育成を行う。対象者は、弘前大学博士後期課程在籍者及び医療、教育・研究及び行政各機関等に従事する現職者を中心とする。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性 の見通し
A	a	b	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

被ばく医療では重要とされるチーム医療の中で、コメディカルの参画は必須であり、その養成を着実に実施していることは評価できる。特に、養成者や担当教員等が、福島原発関連被ばく現地において、その医療に貢献していることは評価できる。今後、養成された人材が活躍する仕組みを構築する上で、被養成者同士、青森県及び弘前大学との間のネットワークを確立し、取組内容を全国に展開させることを期待する。

・**進捗状況**：所期の人材養成目標数を上回っており、採択時のコメントに定める実績を上げていることは評価できる。今後、当該地域において、被ばく医療のチームワークを組む上で必要とされる職種と人数が確保されているか、そのニーズ調査を実施することを期待する。

・**人材養成手法の妥当性**：講師陣の充実、専門テーマの設定や開講時期の選定など妥当なプロジェクト推進であると評価できる。しかし、養成された人材の具体的な役割や地域での活用方法が明確でないため、今後、青森県と連携して緊急時に組織対応できるようなネットワークを構築するなど、活躍の場を明確にすることが必要である。

・**実施体制・自治体等との連携**：青森県と多面的に連携を実施しており、密接な情報交換により適切にプロジェクトを推進していることは評価できる。今後、防災計画における養成人材の活用方法や平常時における養成人材の活用方法について、明確にすることを期待する。

・**人材養成ユニットの有効性**：修了者が出ていない段階であるにもかかわらず、受講生や担当教員等が福島原発関連被ばく現地において、その医療に貢献していることは評価できる。今後、シミュレーション教育などを導入することにより、養成人材の現場対応力を一層向上させるこ

とを期待する。

・**継続性・発展性**の見通し：被ばく医療に必要な高度の専門知識を備えた人材を育成する仕組みを継続させる方法を検討していることは評価できる。全国的な被ばく医療に関わるネットワーク形成は重要な課題であることから、今後、敦賀市との連携をさらに強化することや、消防などの関連機関との連携も進めることを期待する。